



# 中四国 いんふあ み～しょん

企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619  
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター

2025年9月  
第64号

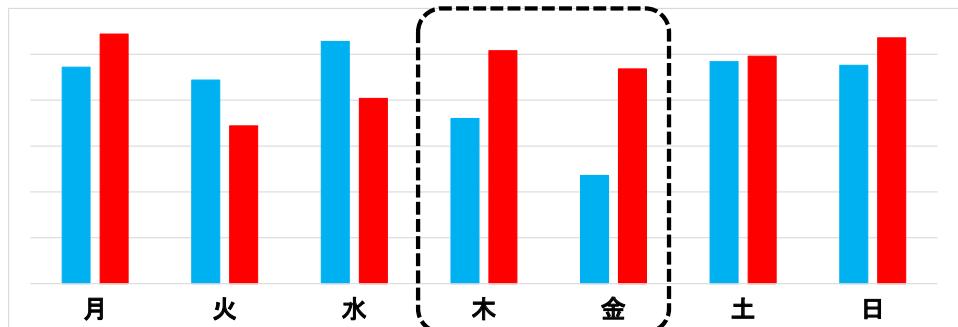


## 細菌スクリーニング導入に伴う血小板確保対策について

日本赤十字社では、令和7年7月26日採血分から血小板製剤の細菌スクリーニング（以下、細菌SC）を導入しました。これに伴い血小板製剤の有効期間が延長され、曜日別の血小板献血血液の必要本数にも変化が生じています。

医療機関における血小板製剤の使用量は、週末に比べると、月・火曜日に多くなります。従来は土・日曜日に採血することによって、必要量の多い月・火曜日に対応できていましたが、細菌SCの導入に伴い木・金曜日の採血数を増やす必要があります（図）。

献血血液の必要本数 導入前（有効期間4日） 導入後（有効期間6日）



木・金曜日の献血が今までより多く必要となります

採血曜日 供給曜日	月	火	水	木	金	土	日
導入前	水	木	金	土	日	月	火
導入後	金	土	日	月	火	水	木

（図）細菌スクリーニング導入前後の血小板献血血液の必要本数の変更イメージ

そこで中四国ブロック内の献血ルームでは、血小板確保対策として定休日の見直しを行いました。これまで木曜定休日だった山口県赤十字血液センター（献血ルームFor You）は火曜日に、金曜定休日だった島根県赤十字血液センター（献血ルームだんだん）は水曜日に変更いたしました。

また細菌SCの導入に伴い、血小板製剤の製品化にも影響が生じたため、より早い時間帯での献血血液の確保が必要となりました。特に洗浄血小板製剤については、午前中まで（10時59分までに抜針）に採血する必要があるため、確保が厳しくなっています。血小板成分献血が可能な献血者の皆様には、ぜひ午前中の採血へご協力をいただければ幸いです。

日本赤十字社では、新たな血小板献血者の確保にも取り組んでいます。成分献血は献血バスでは行えず、献血ルームでのみ対応しているため、移動採血に来ていただいた献血者に対し、献血ルームでの成分献血のご案内を行っています。今後も医療機関へ移動採血バスがお伺いすることがあると思いますが、献血ルームでの成分献血にもぜひご協力いただきますようよろしくお願ひいたします。

# 血液センターにおける学生臨地実習



2025年4月から7月にかけ、鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻4年生(すなわち、未来の臨床検査技師)の皆様へ、臨地実習の輸血部門の一環として「血液センターの見学およびMRによる講義」を実施いたしました。

臨地実習とは、学生が講義や実習・演習で学んだ知識や技能をもとに、実際に医療機関等で指導・助言を受けながら具体的・個別的に臨床検査業務や職種連携等を実践するものであり、臨床検査技師養成校において卒業に必須のカリキュラムです。

血液センターの見学では、大学病院内に居を構える米子出張所にて、各血液製剤の保管・管理状況や危機管理体制について説明いたしました。また実際に製剤を取り、臨床の現場さながら製剤の外観確認をしていただきました。

講義では、鳥取大学医学部附属病院輸血部の先生と相談した上で、「血液製剤の使用指針」を中心に、血液製剤ができるまでの一連の流れ(献血種別、安全対策、製造工程、特殊な製剤)などの内容を説明させていただきました。「血液製剤の使用指針」では内容を膨らませ、血小板輸血不応の原因とその対応、血液型と不規則抗体・まれ血、胎児・新生児溶血性疾患(HDFN)、新生児同種免疫性血小板減少症(NAIT)といった、将来遭遇するかもしれない事象についても取り上げました。加えて、血液センターでMRとして働く臨床検査技師・認定輸血検査技師として、どのような仕事をしているのかについても具体的に紹介いたしました。

血液センター内部や血液センターで働く臨床検査技師について知る機会は意外と少ないと感じています。そのため、このような実習を設けていただくことは我々血液センター職員にとっても、地域医療や医療機関との連携の深化、若年層献血率の向上といった観点から大変貴重な機会となりました。臨床検査技師を目指す学生の皆様にとっても、輸血分野へ興味を深め進路選択の一助としていただけましたら幸いです。

鳥取大学教職員・輸血部からのお声掛け・ご尽力により、このような臨地実習に繋がりましたこと御礼申し上げます。来年度以降もぜひ学生臨地実習お待ちしております!



(鳥取県赤十字血液センター 学術情報・供給課 森 唯)